

技術・家庭（家庭分野）

家庭分野の各項目に配当する授業時数及び各項目の履修学年については、家庭分野の内容 A から C の各項目に適切な授業時数を配当するとともに、3 学年間を見通して履修学年や指導内容を適切に配列するなど、生徒や学校、地域の実態等に応じて各学校で適切に定めます。

家庭分野の授業づくりのポイント

- 3 学年を見通した全体的な指導計画の作成・見直し
- 問題解決的な学習の充実

3 学年を見通した全体的な指導計画の作成・見直し

指導計画の作成に当たっては、教科の目標の実現を目指し、中学校 3 学年間を見通した全体的な指導計画を検討します。各学校において、学習指導要領及び解説に基づき、生徒の実態に応じて指導計画の作成、見直しを行うことが大切です。

〔指導計画の例〕

	4 月～7 月	8 月～12 月	1 月～3 月
1 年	ガイダンス 自分の成長と家族・家庭生活 A (1) ア A (1) ア (3) アイ	さまざまな食品の選択と保存 B (3) ア (ア) 日常食の調理と地域の食文化 B (3) ア (イ) (ウ)	地域の食文化 B (3) ア (エ) 1 日分の献立作成 B (2) ア (イ) イ C (1) ア (ア) イ
	持続可能な衣生活 イ	持続可能な衣生活 B (4) アイ B (5) アイ C (1) アイ	家族生活と消費 C (1) ア (ア) 消費を支える仕組 C (1) ア (イ) イ
2 年	目的に応じた衣類の選択 B (4) ア (ア) 日常着の手入れや保管 B (4) ア (イ) イ	家族と暮らす住まい B (6) ア (ア) 安全な住まい・安心な暮らし B (6) ア (イ) イ	消費者被害と消費者の自立 C (2) アイ 生活の課題と実践 A (4) ア B (7) ア C (3) ア
	生活を豊かにするものの製作 B (5) アイ	持続可能な住生活 B (6) アイ C (1)	
3 年	生活の課題と実践 A (4) ア B (7) ア C (3) ア	「生活の課題と実践」は、各内容に位置付け、生徒の興味・関心や学校、地域の実態に応じて、A (4)、B (7) 及び C の (3) の三項目のうち、一以上を選択して履修させます。	
	幼児の生活と家族の役割 A (2) アイ	生活の課題と実践 A (3)	

問題解決的な学習の充実

一連の学習過程を適切に組み立て、生徒が主体的に課題に向き合い、協働しながら、段階を追って学習を深められるように配慮します。特に、「生活の中から問題を見だし課題を設定する」場面を確実に位置付けることが大切です。

学習過程の参考例

生活の中から問題を見だし課題を設定する

知識及び技能を習得し、解決方法を検討する

解決の見通しをもち、計画を立てる

知識及び技能を活用して課題解決に向けた実践活動を行う

実践した結果を評価・発表し、改善策を検討する

生活



生徒が問題を見だしたり、見出した問題を課題設定につなげたりするためには、授業者が、様々な手立てを意図的に講じる必要があります。

〔手立ての例〕

家族へのインタビュー

事例の検討

イメージマップの作成

ポイントをキーワードで整理

生徒が **問題**を見だし**課題**を設定する



Check!

題材の指導計画の充実については、これまでの手引にも掲載しています。